

**「つなげよう、支えよう森里川海」
プロジェクトについて**

平成27年4月

環境省

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト

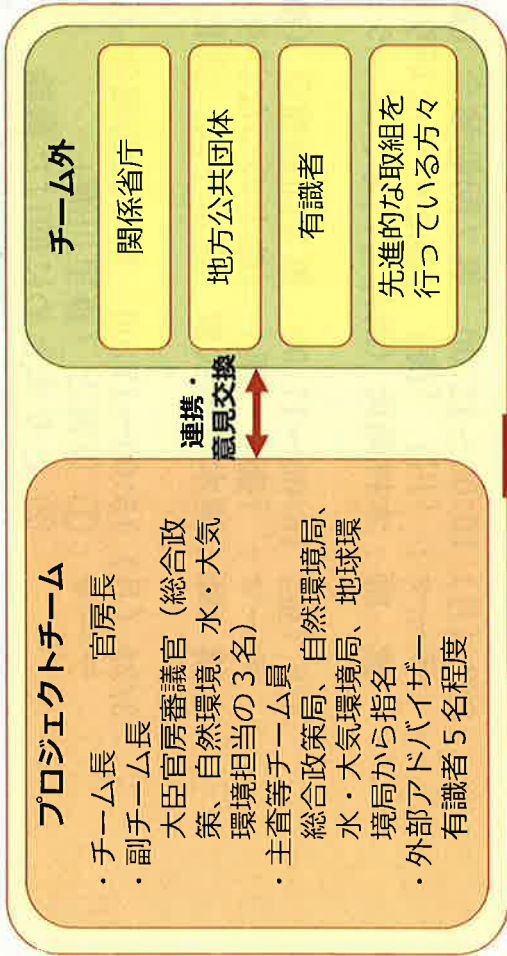
環境省

私たちの暮らしを支える「森里川海」。それが今、過度の開発や利用、管理の不足などにより、つながりが分断されたり、質が低下しています。人口減少、高齢化が進行する中で、どのように森里川海を管理し、それを通じて地方を創生していくか、官民一体となって考えていく必要があります。

環境省では、「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトとして、地方公団、有識者、先進的な取組を行っている方々との対話や議論を行いながら、森里川海の恵みを将来にわたって享受し、安全で豊かな国づくりを行うための基本的な考え方や対策の方向をとりまとめます。

■ プロジェクトチームの立ち上げ

官房長をチーム長として、総合環境政策局、自然環境局、水・大気環境局及び地球環境局の職員、外部アドバイザー（有識者）で構成するプロジェクトチームを設置。また、広く地方公団、有識者、先進的な取組を行っている方々等と意見交換を行いながら基本的な考え方や対策の方向のとりまとめを行う。



官民一体となってとりまとめ

※ プロジェクト名称「つなげよう、支えよう森里川海」について
 自然資源を象徴する「森」「里」「川」「海」を保全してつなげること、また、それぞれに関わる人をつなげること、そして、都市部に住む人たちも含めて国民全体で「森里川海」の保全とそれに関わる人たちを支えることを示している。

私たちの暮らしを支える森里川海



自然の恵みを引き出す仕組みの構築やライフスタイルの転換

■ スケジュール

- 26年12月 「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトチーム立ち上げ、第1回勉強会
- 27年1～6月 勉強会、意見交換会、公開シンポジウム等
- 6月頃 中間とりまとめ

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト勉強会 (案)

12/19 第1回勉強会 (済み)

テーマ：キックオフ、森里川海をつながり再生

講師：NPO法人森は海の恋人 畠山氏、田中氏

2/9 (月) 10:00～12:00 第2回勉強会 (済み)

テーマ：「川」「海」(他とのつながりを視野に入れて)

講師：木村尚氏 (海洋専門家、ダッシュ海岸)、海部健三氏 (中央大学、ウナギ)

3/6 (金) 15:00～17:00 第3回勉強会 (済み)

テーマ：「森」「里」(他とのつながりを視野に入れて)

講師：速水林業代表 速水亨氏、芸北 高原の自然館 白川勝信氏

3/23 (月) 15:00～17:00 第4回勉強会 (済み)

テーマ：① 災害と「森里川海」

② とりまとめに向けた議論

講師：公益財団法人日本生態系協会 関健志氏

5/12 (火) 10:00～12:00 第5回勉強会

テーマ：地方行政の中での「森里川海」、「森里川海」の経済的な価値、都市と地方

講師：豊岡市長 中貝宗治氏、京都大学 栗山浩一氏

5/21 (木) PM 第6回勉強会

テーマ：「森里川海」の恵み -食と健康

講師：アルケッツチャーノ シェフ 奥田政行氏、〇〇 (和食)、〇〇 (健康)

5/30 (土) PM 公開シンポジウム

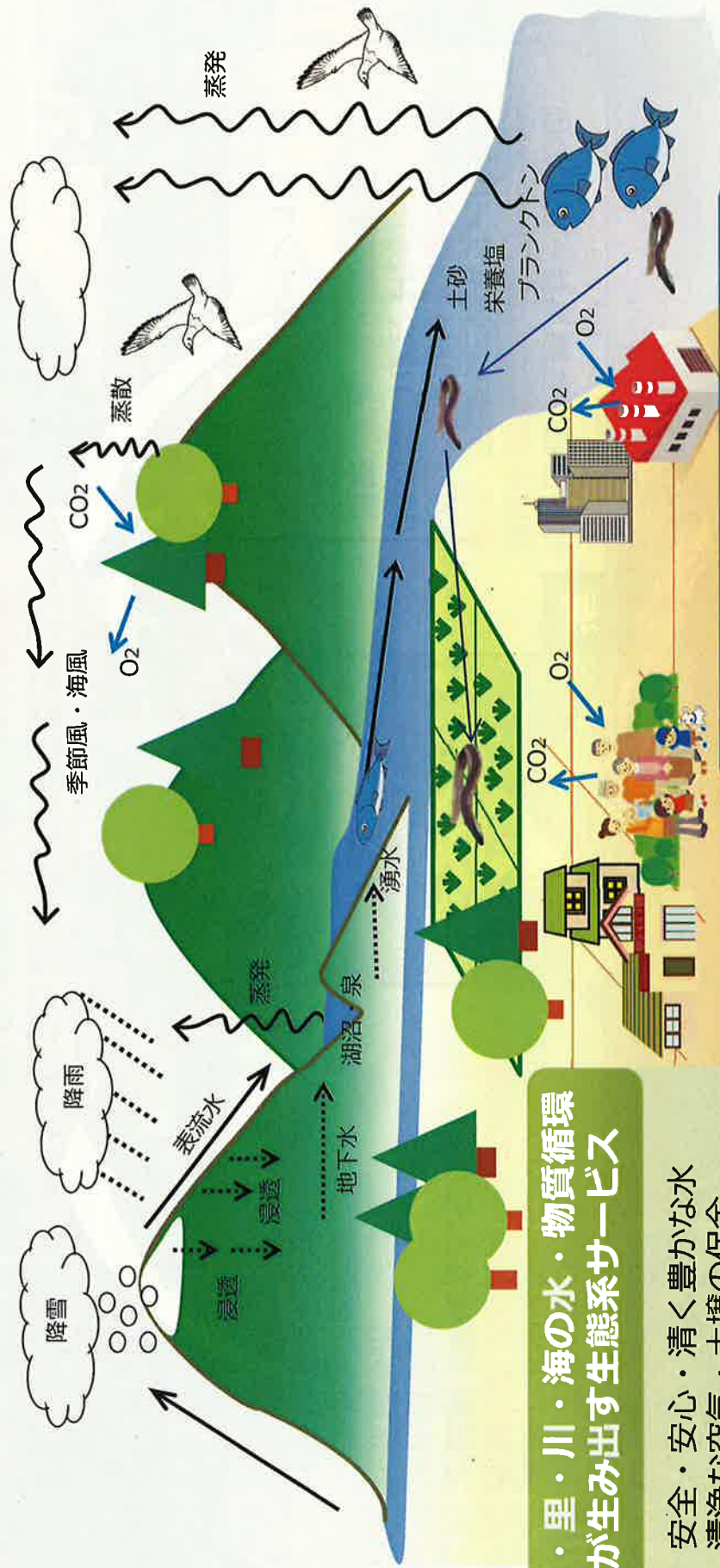
テーマ：「森里川海」を象徴する水循環、「森里川海」を支える社会の仕組み

パネリスト等：幅広いセクター

6月 第7回勉強会

テーマ：中間とりまとめ

森・里・川・海の水・物質循環が生み出す恵み



森・里・川・海の水・物質循環 が生み出す生態系サービス

- 安全・安心・清く豊かな水
- 清浄な空気・土壌の保全
- 安全で美味しい食糧
- バイオマス
- 地域特産品
- 地域の自然に根ざした文化
- 災害防止
- レクリエーション

都市の人々は、農山漁村が生み出す
これらの恵みを受けてくらししている。



中央環境審議会意見申より抜粋
- 環境・生命文明社会のイメージ「地域循環共生圏」

森・里・川・海の生態系サービス

森

森林の生態系サービスの価値は年間約**70兆円**と試算（林野庁、H13）

- ・土砂流出防止
- ・二酸化炭素吸収
- ・水源涵養
- ・洪水緩和等
- ・水質浄化

里

農業・農村の多面的機能の価値は年間約**8兆円**と試算（農林水産省、H13）

- ・洪水防止
- ・土砂崩壊防止
- ・やすらぎ等
- ・河川流量安定
- ・地下水涵養

川

湿原の生態系サービスの価値は年間約**8,391億円**～**9,711億円**と試算（環境省、H26）

- ・水量調整
- ・水質浄化
- ・二酸化炭素貯蓄
- ・レクリエーション等

海

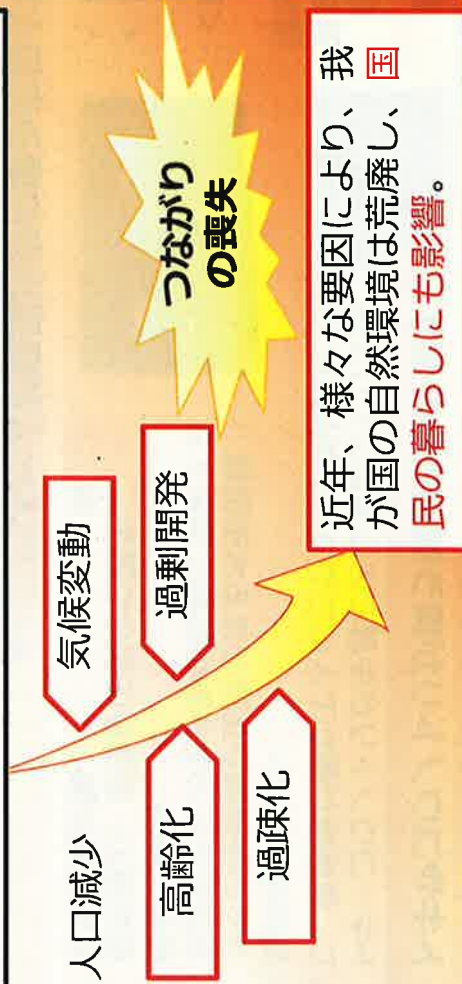
サンゴ礁の生態系サービスの価値は年間約**2,581億円**～**3,345億円**、干潟の生態系サービスの価値は年間約**6,103億円**と試算（環境省、H22、H26）

- ・漁業
- ・水質浄化
- ・観光・レクリエーション等
- ・海岸防護

各地域の自然の恵みに支えられ、安全で豊かに暮らせる都市

森・里・川・海の連環確保の必要性－顕在化する暮らしへの影響－

森・里・川・海といった自然環境が提供する生態系サービスの恩恵は、全ての国民が享受。



□ 資源の枯渇

森・里・川・海のつながりが失われ、乱獲や海洋環境の変動なども相まって、ウナギなどの身近な資源が枯渇。



□ ふれあいの機会の減少

里地里山の荒廃により、子供達が自然にふれあう機会が減少し、生物多様性を保全する国民意識も低下。



□ 水供給の不安定化 □ 災害の激甚化

気候変動の影響により降水量や降水パターンが変化し、渇水の発生頻度が増加。一方で、出水による災害の激甚化も懸念。



◎ 渇水 (国交省HPより)



◎ 2013年台風25号の被害 (伊豆大島)

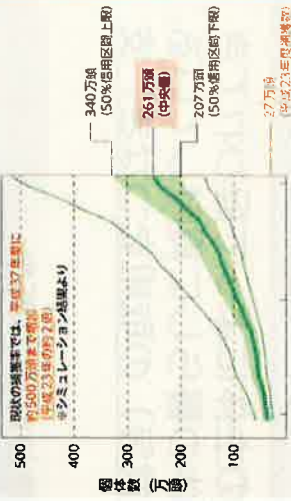
□ 森林・里地里山の荒廃 □ 鳥獣被害の深刻化

人の管理が不足することにより、人工林の荒廃や耕作放棄地が増加。野生鳥獣の個体数が増加し、食害による森林荒廃、農林業被害が深刻化。これらにより、水源涵養や国土保全機能の低下、身近な生物の減少が懸念。



◎ 放置された里山

◎二ホンジカカの推定個体数



森里川海を豊かに保ち、恵みを引き出すための取組アイデア

森里川海を豊かに保ち、恵みを引き出す取組は、これまで主に地域の一部の主体によって担われてきた。しかし、これらの取組は、地域のためだけでなく、国土の保全や国民全体の暮らしに貢献している。このため、国と地方、都市と地方が連携して、様々な主体（行政、NPO、企業等）の取組をつなぎ、支えるとともに、さらに広げていくことが重要。

森林のメタボを解消・健全化して活用

豊かな森林資源を再生し、活用するための取組を実施。

<具体的な取組>

- ・ 管理コストを下げ、自然の力を活かした適正な林業経営（FSC森林認証の取得促進など）
- ・ 木材市場の活性化
- ・ 放置された森林の広葉樹化 等



江戸前などの地域の豊かな食の再生

「江戸前」や「うな丼」など身近な食をシンボルとして、環境改善を図る。

<具体的な取組>

- ・ 生き物のゆりかごである藻場や干潟、砂浜、河川環境等の再生
- ・ 漁場再生のための森づくり
- ・ 食文化から森里川海のつながりへの意識啓発 等



トキやコウノトリが舞う国土を取り戻す

トキ・コウノトリが生息できる環境づくりを通して、生き物が豊かで人にもやさしい地域づくり。

<具体的な取組>

- ・ 多くの生き物が生息できる水田環境
- ・ 水路や小川の生き物の移動を阻害する段差の解消
- ・ 里地里山、湿地等の保全や再生
- ・ 外来生物対策 等



安全な暮らしの基盤を確保

森里川海のバランスが崩れると、人の生活に被害を及ぼすことも。土地利用の見直しや鳥獣の管理を行うことにより、安全な暮らしを確保する。

<具体的な取組>

- ・ 災害に強い土地利用の計画づくりと調整
- ・ 鳥獣捕獲等の担い手育成
- ・ 地域の捕獲体制の整備 等



一人一人が森里川海の恵みを日々意識し支える社会をつくる



森里川海で遊ぶ子どもたちの復活

<具体的な取組>

- ・ エコツアーリズム、農山漁村体験の充実
- ・ 遊び環境の整備、柔軟なルール

人のつながりの再生

<具体的な取組>

- ・ 森里川海の恵みに感謝する行事や文化の復活
- ・ 都市と地方の交流

企業やNPO等の活動環境整備

<具体的な取組>

- ・ 企業と地方のマッチング、成果の公表
- ・ 使いやすい交付金

みんなの力で自然の恵みを引きだすための提案

国民・地域からのボトムアップの取組で社会の在り方を変革する新たな仕組みを導入
⇒自然の劣化を引き起こす社会から、自然を豊かに再生し恵みを引き出す社会に転換



自然の恵みを享受している国民一人
ひとりが少額ずつ負担
(自然へのおさい銭・次世代への貯金)



森・里

川・海

つながり確保

自然へのおさい銭
次世代への貯金

国民会議で議論



用途は、国民会議で議論し、負担する
国民の意見を幅広く反映するとともに
透明性を確保

自然の恵み
を引き出す
取組

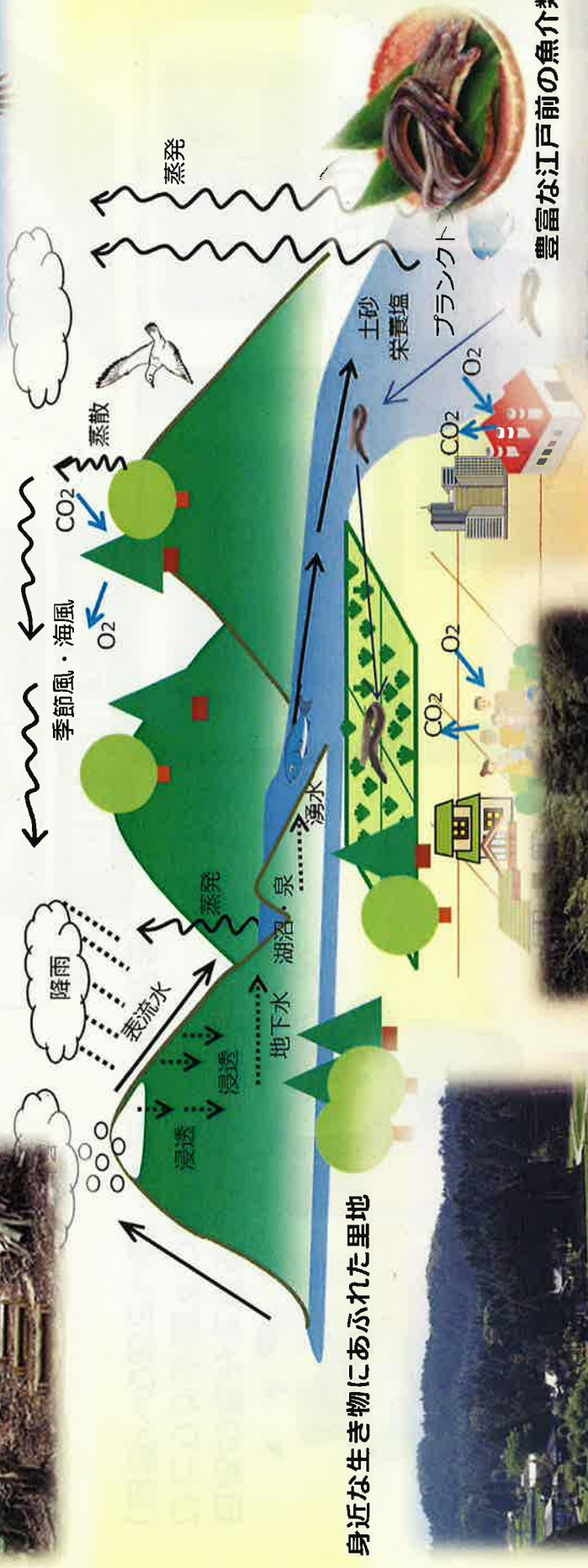
国、自治体、企業、
住民・NPOによる
幅広い取組を通じて、
自然の恵みを引き出す

恵みあふれる森里川海へ

豊かな恵みを生み出す森



コウノトリの舞う空



身近な生き物にあふれた里地



生き物の命をつなぐ河川



森里川海の連環が生み出す干潟

みんなの力で自然の恵みを引きだす新たな仕組みの創設に向けて

- 私たちの暮らしは、森・里・川・海といった水や生命の循環が提供する生態系サービスの恩恵に支えられている
- 地方の人口減少・高齢化が進み、都市住民の自然との繋がりも希薄化する中で、これまで行われてきた森里川海のきめ細やかな管理・手入れが難しくなり、自然の荒廃が深刻化して、鳥獣被害や自然災害も多発
- 地方・都市を通じ国民一人一人が自然の恵みを意識し、森里川海つつながりを再生するきめ細かな取組を一体となって進めていく新たな国民的運動が求められ、地方創生という観点からも極めて重要



私たちに恵みをもたらしている森里川海を国民全体で支えていくために、地方・都市を通じ国民一人一人が日々の暮らしの中で自然の恵みを意識しながら少しずつの費用を出し合い、市民・自治体をはじめ皆で森里川海をきめ細やかに手入れする活動を進めていく、新たな仕組みを導入することが必要

